

FUSO

magazine

NO.83

2023 03/04
Mar.Apr.



[Our Philosophy]
日本通運株式会社

[FUSO特集]
キャンター誕生60周年

- ・ドライバーの癒しスポット サービスエリア編
- ・誌上クリニック ストレス解消術
- ・定期的なインジェクター洗浄を!

[特集]

進化を遂げた
新型eCanter
いよいよ発売開始





CONTENTS

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------------|
| 3 Our Philosophy 私たちの哲学
日本通運株式会社 | 14 誌上クリニック
ストレス解消術 |
| 6 特集
進化を遂げた新型eCanter
いよいよ発売開始 | 15 定期的なインジェクター洗浄を! |
| 10 FUSO特集
キャンター誕生60周年 | 16 eCanterが行く 大阪・舞洲 |
| 12 ドライバーの癒しスポット
サービスエリア編 | 17 FUSOインフォメーション
市川支店がリニューアル |
| | 18 Good for 遊 きょうは何の日 |
| | 19 Coffee Break & プレゼント |



FUSO
magazine

| No.83 | 2023 03/04 Mar, Apr.

表紙Photo: 新型eCanter

©FUSO magazine 本誌掲載の
記事、写真、イラスト等の無断複写、
転載を禁じます。

物流を通じて、世界中の人々のより良い生活と

持続可能な社会の発展を支える



OUR PHILOSOPHY

— 私たちの哲学 —

日本通運株式会社

東京都

代表取締役社長 兼

NIPPON EXPRESS ホールディングス株式会社 副社長執行役員

堀切 智

1937年の創立以来、物流業界のリーディングカンパニーとして成長を続ける日本通運株式会社。

現在は主に「国内輸送」「国際輸送」「専門輸送(美術品や重量品など特殊な貨物の輸送)」「倉庫保管」「引越し」などの分野を軸に事業を展開、国や地域を越えて人や企業を結ぶ総合物流企業として、

ワンストップのロジスティクスソリューションを提供しています。コロナ禍を機に物流業の社会的役割がますます大きくなる中、人材不足や環境問題への配慮など業界が直面する課題に、同社はどのように取り組んでいるのでしょうか。

2023年1月から同社を率いる堀切 智代表取締役社長に聞きました。



2022年に体制刷新、 「グローバル市場で存在感を持つ ロジスティクスカンパニー」へ

まずは、御社の近況を教えてください。

当社グループは長期ビジョン「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」の実現を掲げており、会社創立100周年を迎える2037年までに海外売上高比率50%という目標に向かって、目下、グループ一丸となって邁進しています。この目標の達成に向けて、よりスピーディーな意思決定と企業グループとして

の価値最大化を図るため、2022年1月に経営体制をホールディングス体制に変更、グループ名も日本通運グループからNXグループに刷新いたしました。同時にグループの新統合拠点である、NXグループビルへ本社機能の移転も実行しました。こうした大きな変革期の中にあつて、NXグループの中核事業会社である日本通運株式会社は、マザーマーケットである国内の事業基盤をさらに強化し、それをしっかりと海外での成長に結びつけていくことをミッションとしています。また、持続可能な社会の実現に向けた取り組みにも引き続き力を入れており、ホールディングス体制への移行に合わせ、経営戦略本部にサステナビリティ推進部を新設し、気候変動問題を含むサステナビリティ全般の取り組みを推進していく体制を整えています。

環境配慮車輛導入で CO₂排出量削減を加速

環境への取り組みとしては、具体的にどのような目標を掲げていますか？ 具体例を教えてください。

喫緊の課題として取り組んでいるのは、CO₂排出量の削減です。NXグループは2023年1月、カーボンニュートラル社会実現への貢献と地球環境の保全を目指

し、CO₂排出量削減について新たな中長期目標として、以下の2つを設定しました。

- **2030年目標** 2030年までに2013年比でNXグループ全体のCO₂自社排出量の50%削減を目指す
- **2050年目標** 2050年までにNXグループ全体でカーボンニュートラル社会の実現に向けて貢献する

これらの目標達成に向けて、日本通運単体では、2013年時点で約50万トンだったCO₂排出量を、2023年までに35万トンにするという目標を掲げています。この目標を達成するために、環境配慮車輛の導入を積極的に進め、2021年度の実績で約40万トンまで減らすことに成功しました。また、消費電力を抑えるための施設照明のLED化についても、2021年度の実績で67%まで進めることができました。ただし、難しいのはここからです。特



に最大のCO₂排出源であるトラックからの排出をどう減らしていくのかは、当面の課題となっています。すでに環境配慮車輛を約1万2000台導入していますが、さらにこうした状況を打破するために、CO₂削減効果の高いEV化への試金石として2022年12月15日に導入したのが三菱ふそうさんのeCanterです。当社が主に使用しているのは中型・大型トラックで、長距離の走行を前提としています。eCanterは小型トラックなのですが、まず実際に使用してみることでその効果を確認すると同時に、今後の中型・大型化への対応と走行距離のさらなる延長に期待したいと考えています。

eCanterを 引越し業務に導入。

CO₂削減以外の効果にも期待

eCanterを導入していただいた決め手は何だったのでしょうか？ また、現在はどうのような業務に活用されていますか？

最大の決め手は、環境性が高く、CO₂を全く排出しないことです。1回の充電での走行距離が約100kmのため長距離輸送での活用は難しいですが、積載量が約3トンあるので近・中距離の引越し業務等には十分活用できます。2023年2月現在、すでに2台を導入して実際に引越し業務に活用していますが、ドラ

イバーからは「音が静かで運転しやすい」「加速がスムーズで、運転後の疲労感が少ない」といった好意的な声が上がっており、CO₂排出量削減という直接的な効果のみならず、従業員の満足度向上という間接的な効果についても確かな手ごたえを感じています。トラブル等もなくスムーズに導入できましたので、2023年中に8台追加して、計10台を稼働させる体制に拡大していきます。三菱ふそうさんには、一日も早くEVトラックの大型化と走行距離の延長を実現させ、物流業界のEV化をより一層リードしていただきたいと期待しています。トラックのEV化は、今や物流企業だけの課題ではありません。コロナ禍を機に物流の社会的役割がクローズアップされ、「エッセンシャルワーカー」として高く評価された一方で、物流業界が抱える「環境への負荷」の問題について

も大きく注目されるようになっていきますので、荷主企業の皆様にも、ゼロエミッションによりCO₂を削減する環境に優しいEVトラックで自社製品を輸送したいというニーズは、今後ますます高まっていくのではないのでしょうか。物流は社会の重要なインフラの一つですから、企業と企業、企業と行政の垣根を越えて、社会全体でどうすればEV化が進むのかを話し合うことが必要です。当社でも充電設備の拡充なども含めて、三菱ふそうさんとも相談しながら進めていきたいと思っています。

物流から新たな価値を創造し、 社会の発展に貢献

最後に、御社の今後の目標を教えてください。

当社グループは1937年の創立以来一貫して、「物流を通じて人、企業、地域を結び、社会の発展に貢献すること」を目指し、国内外で事業を拡大してまいりました。今後もこの使命は変わることなく、グループの力を結集して自ら進化し続け、物流から新たな価値を創造することに挑戦し続けます。この挑戦は決して自社だけで成し遂げられるものではありません。三菱ふそうさんをはじめ外部のパートナー企業の皆様からのアドバイスやサポートをいただきながら、自社のみならず業界全体の成長に寄与し、物流による新たな価値の創出に取り組んでいきたいと考えています。



COMPANY DATA



日本通運株式会社
代表取締役社長：堀切 智
創立：1937年(昭和12年)
社員数：約34,000名
環境配慮車輛保有台数：
約12,000台
(2022年12月末現在)

豊富なアセットとノウハウを有する総合物流のリーディングカンパニー。2022年1月にホールディング体制となったNXグループの中核事業会社である。

待望の発売!

進化を遂げた新型eCanter

2022年9月に発表された新型eCanter。大きな注目を集め、期待の声が寄せられる中で、いよいよ発売された。



バッテリーサイズ (定格容量)		Sサイズ (41kWh)	Mサイズ (83kWh)	Lサイズ (124kWh)
航続距離 (国土交通省実測値)	標準キャブ	116km	236km	設定なし
	広幅キャブ	99km	213km	324km
充電時間*	普通充電 (6kW)	約8時間	約16時間	約23時間
	急速充電 (50kW/70kW)	約50分/約40分	約95分/約65分	約150分/約90分

※1 充電時間は目安です。実際のバッテリーの温度、残量により変動します。

車両総重量		5tクラス				6tクラス				7.5tクラス				8tクラス
積載量*		~2tクラス				~2tクラス				~3tクラス				~3.5tクラス
ホイールベース(mm)		2500	2800	3400	3850	2500	2800	3400	3850	2500	2800	3400	3850	4750
キャブ	標準													
	バッテリー													
標準	S													
	M													
	L													
ワイド	S													
	M													
	L													
EX拡張	S													
	L													
サスペンション		独懸								リジッド				
モーター最高出力		110kW(150PS)								129kW(175PS)				

※積載量は平ボデーの参考値です。*小型車枠(4ナンバー)の設定はありません。



両があるなど、いよいよ物流の世界にも本格的なEVの時代がやってきたと言えるだろう。

航続距離が大幅に向上

新型eCanterは、バッテリー性能がさらに進化、ディーゼル車の燃費にあたる「電費」が大幅に向上した。豊富なボデーバリエーションに見合う3タイプのバッテリーを用意。優れた性能で幅広い用途のニーズに対応できる。Mサイズのバッテリーでは、航続距離は標準キャブでは236km、広幅キャブでは213kmとなっていて、ますます多様なニーズに対応することが可能になった。

豊富なシャシラインナップ

新型eCanterはさまざまな用途で使える28型式ものの豊富なシャシラインナップを取りそろえ幅広い用途に対応している。車両総重量は5t、6t、7.5t、8tの4つのクラスがあり、ホイールベースバリエーションも5種類が用意されていて、8tクラスには4750mmの超ロングホイールベースが設定され、より細かな車両の用途に対応することが可能となった。また、準中型5t限定で運転できる車両があるなど、い

三菱ふそうの EVテクノロジー

新型eCanterの進化を可能にしたのは、三菱ふそう独自のEVテクノロジーだ。

EVトラックの命とも言えるバッテリーには、高性能リチウムイオンバッテリーを採用。車両に合わせてS/M/Lサイズを搭載していて、航続距離の大幅な向上を支えている。リチウムバッテリーはモジュール化され、最も安全な位置に搭載している。バッテリーを1個搭載するものがSサイズ、2個搭載するものがMサイズ、3個搭載するものをLサイズとして、ホイールベースに応じていずれかのサイズが使用される。リチウムイオンバッテリー

の特長としては、エネルギー密度の高さや大きなパワー、寿命が長いことなどが挙げられる。自己放電が少なく、繰り返し充電しても容量低下がほとんどないの
で、バッテリーを使い切ることなく、必要な時に必要なだけ充電することができる。

EVトラックの駆動システム、ドライブトレインでは、アクスル、リダクションギア、モーター、インバーターが一体化された新開発のコンポーネント、eアクスルを採用し、プロペラシャフトのない高効率の動力伝達とコンパクト構造を実現。シャシの展開拡大に貢献している。モーターはeCanter専用にカスタマイズされたもので、電気モーター特有の高いトルクを発進時から発揮する。

持続可能な未来へ 新型eCanterへの期待

気候変動を引き起こす地球温暖化の原因として指摘されるのは温室効果ガス排出量の増大で、中でも、主要因は二酸化炭素(CO₂)だとされている。

環境省や国土交通省の調べによると日本の温室効果ガス排出量のうち、CO₂は9割以上で、自動車全体では16%、貨物自動車は6.8%を占めている。

「エネルギーの使用の合理化等に関する法律」(省エネ法)ではトラック保有事業者はエネルギー使用状況などの定期報告が求められている一方で、EVトラックの購入や充電設備・設置のために補助金が準備され免税も適用される。地球温暖化対策は積極的なビジネスチャンスにもなり得るものとされ、環境・社会・企業統治に配慮した企業に投資するESG投資が注目され、ESGに配慮した経営の重要性が増す中で、ゼロエミッションのeCanterへの期待や関心が高まっている。



eアクスルは三菱ふそうが独自開発したコンポーネント。トランスミッションやクラッチ、プロペラシャフトのない、高効率の動力伝達とコンパクト構造を実現。シフトショックは皆無なので、ドライバーにもやさしいクルマの実現に寄与している。



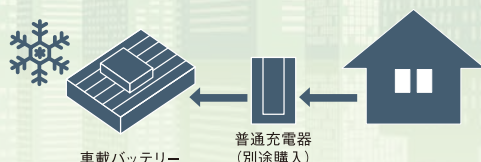
EVならではの 機能がさらに充実

EVならではの機能の充実にも注目したい。

『**回生ブレーキ**』回生ブレーキは、発電により強力なブレーキ力を発生し、同時に発電した電気を高圧バッテリーの充電を行う。積極的に回生ブレーキを使うことで、電費向上に貢献することができる。制動力は、回生なしから強回生までの4段階に変えることが可能で、その調節はシフトレバーによって行う。シフトレバーを左に倒し、レバーを前後(前で強く、後で弱くなります)に倒すに伴って制動力を変えることができるので、イージードライブも同時に実現している。



『**バッテリープレコンディショニング**』冬期や寒冷地でも走行開始時のエネルギー消費を節約し、十分なパフォーマンスを発揮できるよう、出発時刻に合わせてタイマーをあらかじめセットし、AC充電時にバッテリーを予熱しておくことが可能だ。



「電気温水暖房（PTCヒーター）」電気温水暖房（PTCヒーター）は標準設定。航続距離を伸ばしたい場合には、温調ダイヤルで設定温度を低くする、あるいはヒーターを切ることで電力消費を走行に回すことが可能だ。必要な個所だけを温める省エネ暖房がオプションで設定されている。



カットスイッチ



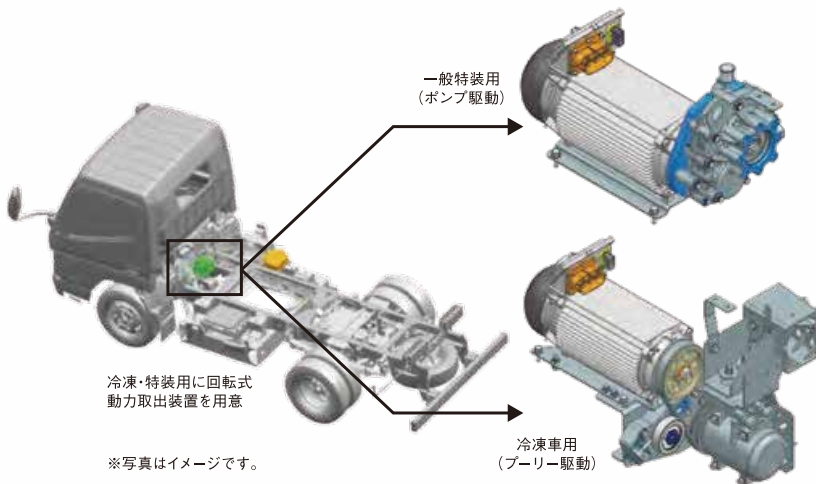
調温ダイヤル

「省電力暖房／デフロスト機能」冬季のPTCヒーター使用による航続距離減少を防ぐため、省電力のステアリングヒーター、シートヒーターを設定。さらにキャブ内の断熱を追加したことで、PTCヒーターの出力制限を行っても暖かな運転環境を確保し、かつ航続距離への影響も少なくできるように。ウインドシールドヒーターによるデフロスト機能も新規設定し、電力消費を抑えながら窓の曇りを取れる。



性能をさらに引き出す
充実の関連オプション

「動力取り出し装置（ePTO）」ディーゼルトラックと同様の動力取り出しができるようにモーター式のePTOを採用。キャブバック下に装備し、特装用油圧ポンプ、冷凍機コンプレッサーの駆動が可能で、既存のディーゼル車用システムをそのまま使用できる。（高電圧供給機能はありません。）



※写真はイメージです。

「外部給電システム（V2X）」車載バッテリーから、家庭用などに有効活用できることで注目が集まっている外部給電だが、

新型eCantでも、車載バッテリーからV2X機器（別途購入が必要となる）を介しての外部給電が可能になった。災害時や緊急時などには、社会の電源として幅広く貢献することができ。



普通充電と急速充電に対応する充電ポート

「充電ポート」EV



トラックのeCant erは従来のディーゼル車とは違い、給油の代わりに充電を行う。車両右側キャブ下にある充電ポートには2つのソケットがあり、それぞれ普通充電（AC）・急速充電（DC）に対応している。両者はサイズとピンの位置が異なるため、間違えてプラグを挿す恐れはない。雨天の場合でも安全に充電できる。

History of electrification

三菱ふそう電動化の歴史

三菱ふそうは環境問題に注目し、さまざまな取り組みを続けてきた。

2006年7月にはパラレル式ディーゼルハイブリッドシステムを採用した、キャンター エコハイブリッドを発売。小型トラックでは初めて新長期排出ガス規制（平成17年規制）をクリアした。

2010年9月、キャンター E-Cell（プロトタイプ）を世界最大級の商用車ショーであるIAA2010に、翌年12月には東京モーターショー 2011年にそれぞれ出展し2016年に、eCanter（プロトタイプ）をIAA2016で世界初公開。2017年7月にeCanter（量産型）の生産を開始、9月に世界初の量産電気小型トラックのeCanterを正式に発表したのだ。



美しいスタイリングと 機能が融合

新型eCarterのインテリアにも注目が集まっている。



ダッシュボードから左右のピラーグリッドにかけて流れるような黒のウイングライン、美しいスタイリングと機能性をシンプルに一体化したモダンなデザインとなっている。また随所にキーカラーのオレンジを配し、機敏に動いて働くアクティブ感を表現するとともに、わかりやすい操作も実現。新しい時代のEVトラックにふさわしいインテリアとなっている。視認性とユーザーインターフェイスに優れた10インチの液晶ディスプレイは走行状況を一目で確認でき、車両の情報の確認や機能の設定を変更できるマルチインフォメーションディスプレイも内蔵、ステアリングスイッチと連動して、メニユー画面の表示やシステム変更などの設定も可能となっている。

EV普及を推進する 三菱ふそうの取り組み



2039年までにすべての新型車両を、走行時にCO₂を出さないカーボンニュートラル車にするビジョンを掲げる三菱ふそうはeCarterを含めたeモビリティの運用・普及に関わるトータルなサポートを「FUSO eモビリティソリューションズ」と名付け、お客様の抱える課題や懸念をともに考え、より良い解決策で克服しながらEV普及を推進している。

専門知識を持った営業担当者による全国販売ネットワークと、多彩なデジタルツールの充実。さらにダイムラートラックグループの持つ知見や、数多くのビジネスパートナーの力を合わせて三菱ふそうは革新の技術と発想で、eモビリティによる輸送の未来を支え続けていく。

充電器・充電器 設置サービス

お客様のEV運用に適した幅広い充電器ラインアップ、また信頼のパートナーによる充電器設置サービスを用意。

eカスタマー サービス

お客様が安全かつ最大限の稼働率で電気トラックを走らせることができるようサポート。

ゼロエミッション ソリューション

独自のCO₂評価、CO₂ロードマップ、再生可能エネルギーへの転換に基づいたカーボンニュートラル実現に向けたサポート。

eデジタル サービス

車両やバッテリーの状態を定期的に確認できるので車両稼働率、効率性を最大化。

eコンサルティング サービス

ルートの選定から充電設備のご提案など、お客様のeモビリティへの移行を三菱ふそうが強力なパートナーとサポート。



eモビリティへのスムーズな移行を支援する包括的な製品とサービス

FUSO eモビリティ ソリューションズ

ファイナンシャル サービス

FUSOグリーンリースは車両のみならず、メンテナンスサービスや運用に欠かせない充電設備も月々のお支払いで対応。導入時の補助金申請なども含めてワンストップでサポート。

バッテリーライフ サイクルマネジメント

充電管理、バッテリー2次利用、リサイクルを通じて、バッテリーライフサイクルを確立。

FUSO eモビリティソリューションズとは：2039年までにすべての新型車両を、走行時にCO₂を出さないカーボンニュートラル車にするビジョンを掲げる三菱ふそう。eCarter®を含めたeモビリティの運用・普及に関わるトータルなサポートを「FUSO eモビリティソリューションズ」と名付け、積極的な支援活動を展開しています。



おかげさまで

キャンター発売60周年

1963(昭和38)年3月に初代キャンターが誕生して今年で60周年。駿馬の健脚と軽快な走りをイメージして名づけられたキャンターは、ゆるぎない安全性と信頼性が評価され、日本の物流を支えてきました。現在、長年のご愛顧に感謝の気持ちを込めた購入資金をプレゼントする60周年記念キャンペーンを実施中です。

誕生以来、進化を続けてきた キャンター

初代のキャンターは1963(昭和38)年に小型トラック市場にFUSOブランドとして初めて参入したT720系でした。優れた走行性能にくわえて経済性を兼ね備えた車として、クラス随一の評価を受けました。初代モデルの発売以降も、キャンターは戦後の復興から高度成長期を経て、輸送の長距離・高速化、そして環境問題や輸送のカーボンニュートラル化がテーマとなった21世紀と、多くの時代を通じて進化を続けてきました。

受け継がれてきた 先駆者精神

キャンターは過去60年の歴史を通して、その特徴である快適性や走行性能にくわえて、エンジンの改良による省燃費の実現やハイブリッド技術による環境性能の実現、さらなる耐久性と快適性の追求、先進安全技術の開発による安全性の強化や、スタイリッシュな外観の採用など、小型トラックに求められるあらゆる面を高次元で実現してきました。これらの進化を通じて、「キャンター」は、安心して快適な環境に優しいお客様のビジネスを支える車として、トラックが向かうべき新しい方向性を提示してきました。

また、1960年代から世界各地で販

1990
(平成2年)

1985
(昭和60年)

1980
(昭和55年)

1975
(昭和50年)

1970
(昭和45年)

1965
(昭和40年)

1960
(昭和35年)

1978年

1978年11月ゴールドキャンターの愛称で親しまれた4代目FE100シリーズにフルモデルチェンジ。ワイドキャブのFE200が設定され、機種展開が飛躍的に増大しました。1979年から国産車には排出ガス規制が始まり、規制対応はモデルチェンジのタイミングに重要な意味を持つようになりました。



1985年

1985年10月、FE3・4シリーズとして5代目のフルモデルチェンジ。エンジンは4D32型110PSを新開発。ターボ車は130PSにパワーアップされました。



1987年

1987年からは、1.5t積が「canterガッツ(Guts)」と命名されました。

1973年

1973年5月、新たに4DR5型80PSエンジンを搭載した3代目T200シリーズにフルモデルチェンジ。高積載のガソリン車には4G52型100PSが新搭載されました。



1963年

1963年3月に登場の初代キャンター、T720系。翌年には4灯ヘッドランプを採用と同時にホイールベースを約80mm延長したロングT722が追加されました。



1968年

1968年7月、2代目T90シリーズにフルモデルチェンジ。エンジンも排気量2,348ccの新開発4DR型に変更。最高出力は75PSに強化されました。1970年には2.5t積、3t積も加わりました。



1978年

1978年にはワイドキャブが登場。1980年11月には1.5t積の15、2t積の20、3.5t積の35の3シリーズの名が冠され、1982年にはフロントグリルにCANTERの文字が入ります。



今なら **Canter®** 購入資金 最大 **100万円** プレゼント

キャンター

60
周年

記念キャンペーン

簡単

キャンペーンの流れ キャンペーン当選までの4STEP



応募期間 〈2023年2月1日～4月30日〉

ご応募はコチラから

	応募期間	当選連絡予定日
第1回	2月1日～28日	3月13日
第2回	3月1日～31日	4月13日
第3回	4月1日～30日	5月16日



売地域を拡大。初めて海外進出した市場の一つであるインドネシアでは、小型トラックのセグメントで過去48年間トップのシェアを維持するなど、キャンターはその機動性や使いやすさが海外でも高く評価され、現在、世界70以上の国と地域で販売されています。「キャンター」に受け継がれてきたのは、「お客様と社会のために、常に先進であること」という先駆者精神。今後もその先進性を磨き、より安全かつ安心で新しい走りを実現するトラックとして、進化を続けていきます。

キャンペーン期間中 毎月20名様、
合計
60名様に当たる

Canter®は三菱ふそうトラック・バス株式会社の登録商標です



2023
(令和5年)

2020
(令和2年)

2015
(平成27年)

2010
(平成22年)

2005
(平成17年)

2000
(平成12年)

1995
(平成7年)



2023年

豊富なシャシラインナップ・航続距離の延長、幅広い架装展開を実現した次世代モデルが2023年に待望の発売。



2020年

先進安全装置を搭載した2020年モデルのeCanter発売。



2017年

国内初の量産型電気小型トラック、eCanter発表。



2012年

「DUONIC®」「BlueTec®テクノロジー」を搭載したエコハイブリット登場。



2006年

パラレル式ハイブリットシステムを採用したエコハイブリット登場。



2010年

小型トラックとして世界初となるデュアルクラッチ式AMT「DUONIC®」を搭載し登場。



1993年

1993年11月、FE5・6シリーズの6代目へとフルモデルチェンジ。新開発の直噴4D35型140PSエンジンをはじめとする、4つのエンジンバリエーションで登場。



2020年

キャブデザインを一新、先進安全性能を向上しモデルチェンジ。



2002年

2002年6月にはNew Generation CANTERとして7代目のフルモデルチェンジ。



ドライバーの癒しスポット

PA/SA編

ドライバーのオアシスだったパーキングエリア(PA)やサービスエリア(SA)は最近では人気のスポットとなり、そこに行くためだけに高速を利用する人も多いのだとか。話題のPAやSAを紹介します。

HOKKAIDO



岩見沢SA(下り)

北海道

岩見沢市では、かつて、競走馬が鉄製のそりを引くばんえい競馬が盛んでした。そのためSAの広い敷地内のあちこちにばんえい馬のモニュメントやオブジェがあります。また、よく手入れされた庭園もガーデニング好きに人気です(写真はいずれもNEXCO東日本提供)。



PICKUP

(上) 海の幸と、たっぷりの野菜を特製タレのあんがけで絡めた海鮮黒醤油あんかけめんが、人気No.1。(左) 美しい施設内には各地のお土産が並んでいます。行列のできるソフトクリームもこちらで。



SAITAMA



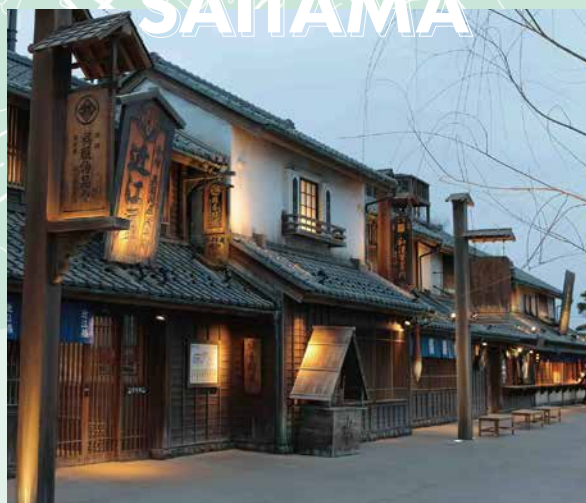
羽生PA(上り)

埼玉県

羽生PA(上り)には、池波正太郎氏の「鬼平犯科帳」の世界が味わえる「鬼平江戸処」があり、江戸の人情と芳醇な食の世界を楽しむことができます。車を降りると、史実に基づき再現された江戸の町並みが目の前に広がります(写真はいずれもNEXCO東日本提供)。

PICKUP

(上)「鬼平江戸処」で江戸時代の屋台が再現されています。写真は軍鶏鍋料理が楽しめる「五鉄」。(右)「みやげ処屋台連」では「火付盗賊改方」の提灯のようなパッケージのカステラ焼きが人気。



CHIBA



海ほたるPA

千葉県

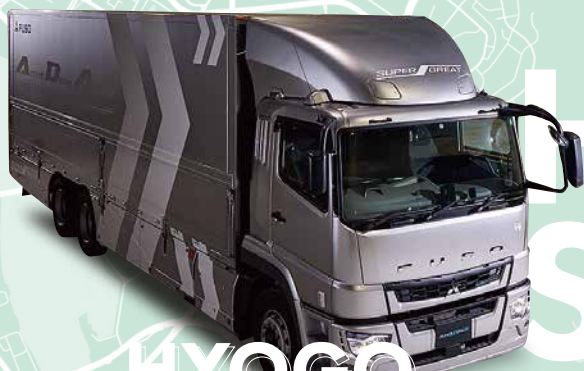
東京湾を横断する東京湾アクアラインの「海ほたるPA」は人工島。1階から3階が駐車場でショップやレストランも充実。5階の展望デッキからは、360度のオーシャンビューが望め、日本夜景遺産にも指定された観光スポットに。(写真はいずれも東京湾横断道路株式会社提供)



PICKUP

(上) 海ほたるの4階にはさまざまなおみやげを取り扱う個性的なショップが並んでいます。(左) 写真は房総の食の魅力が詰まった「これぞ・ちへば丼」。新鮮さとボリュームも魅力の逸品です。





HYOGO

HEALING SPOT



宝塚北SA

兵庫県

「宝塚モダン」をコンセプトにした外観が人気の宝塚北SA。ホテルの中庭のようなパテオではさまざまなイベントが開催され、宝塚出身の手塚治虫さんのキャラクターグッズコーナーもあります。(写真はいずれも西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社提供)。



PICKUP

(上) 充実したフードコートも宝塚SAの魅力です。多彩なメニューでドライバーをお迎えします。(左) ヨーグルトジェラート[yogorino] (ヨゴリーノ)の宝塚SA限定はちみつヨゴリーノ。



伊予灘SA(下り)

愛媛県

松山自動車道・伊予灘SAの下り線からは、道後平野、瀬戸内海の景観がドライバーの疲れを癒してくれます。夕陽と夜景の美しさから高速道路で初めて恋人の聖地に認定されています。(写真はいずれも西日本高速道路サービス・ホールディングス株式会社提供)。

PICKUP

(上) 充実のショッピングコーナーには、愛媛ならではののおみやげはもちろん、四国の特産品も。(右) 写真は愛媛県今治市のご当地グルメ・今治焼豚玉子飯。一度食べるとクセになる人気メニュー。



EHIME

OITA



別府湾SA

大分県

別府湾を一望できる別府湾SAは上下線が遊歩道でつながっていて、どちらからでもすべての店舗を利用できます。立地をいかして作られたSAの「鳥になれる見晴らし台」というスポットは恋人の聖地に認定されています。(写真はいずれも別府湾サービスエリア提供)。



PICKUP

(上) 人気のメニューの一つが釜揚げしらすとカボスのピッツア。特注の石窯で焼かれた絶品です。(左) 高台にあるため眺望がよい別府湾SA。海から昇る朝日と朝焼けがドライバーを癒してくれます。



トラックドライバーのための 健康講座

THEME

長距離運転でたまるストレス
解消する方法は？



長距離運転をしていると、どんなに運転が好きな方でも運転時間が長くなればそれだけ、様々なストレスがたまってくるものです。ストレスは安全運転の大敵ですね。大型車のドライバーのストレスの原因はどんなものなのか、そしてその解消法を探ってみました。

かつき みさこ
勝木 美佐子

医師・博士(医学) 労働衛生コンサルタント、日本産業衛生学会指導医、日本内科学会総合内科専門医 株式会社産業医かつき虎ノ門事務所代表 1993年日本大学医学部卒、96年より産業医業務開始。運送業、清掃業、製造業、地方公務員、病院、通信業、アパレル業、IT業、ホテル業など多岐にわたる産業医療業務に従事。

運送業に従事する大型車のドライバーが、運転中に経験するストレスについて調べた結果※では、「立腹・イライラ」することが最も多く、車の割り込みやあおられる等のように他車の行動が主な原因になっているようでした。「事故不安」も同じくらいに多く、視力や体力、集中力が低下して生じる事故に加え、自転車や歩行者等を巻き込む事故に不安を感じており、「イライラ」と「事故不安」が、運転中のストレスの6割を示していました。

運転中に、割り込みや渋滞などでイライラした経験は誰でもあるかと思いますが。その時には、深呼吸をしてイラっとした自分に、正反対の感情の言葉を口に出してみましよう。例えば、急に自分が走っていた車線に割り込まれイラっとした時、「相手に道を譲ってあげよう」とあえてポジティブになれる言葉を声に出します。これを「セルフトーク法」といいます。イラっとするたびに、自分に対してポジティブな声掛けをしていくうちに、イライラする感情をコントロールすることができます。

また、眠気覚ましにガムを噛む方もいらっしゃるかもしれませんが、「噛む」という行為は脳に刺激を与え、頭をスッキリさせる効果があります。プロ野球選手などのアスリートがリラククスや集中力を高めるために試合中にガムを噛んでいる姿を見たことがあると思います。眠い



※公益財団法人国際交通安全学会 平成20年度研究調査報告書「ドライバーの感情特性と運転行動への影響」

時だけでなくイライラした時でも、ガムを噛んでストレスを分散させましよう。

目の疲労もストレスになります。目の疲労を回復するには、車を停めて目を閉じて休めるのが一番です。特に寒い時期には、ホットアイマスクで目を温めることをお勧めします。アイマスクとして光を遮断して目の疲れを取るとともに、温めることで目の周りの血行を良くして回復効果を高めてくれます。最近では、香り付きのアイマスクもあり、アロマによるリラククス効果も期待できます。

お役立ちグッズ紹介 アイマスク編

アイマスクは外部からの光を遮ることで、睡眠の質の向上が期待できると同時に目をしっかり休めることができます。目の周りの筋肉が温められることで疲労感の軽減に役立つホットアイマスクであれば、ドライバーのさまざまなストレス解消に役立ちそうです。

ホットアイマスクには使い捨て式、電子レンジ式、電熱式などがあります。使い捨て式は個別に包装されていて、開封するだけ温かくなり、香り付きのものもあるので気楽に使用することができます。ただし使い捨てなので使用は一回きり。コストが少し気

なります。電子レンジ式は、簡単な手入力で繰り返し使用することも可能で、1分前後加熱して使用します。形や

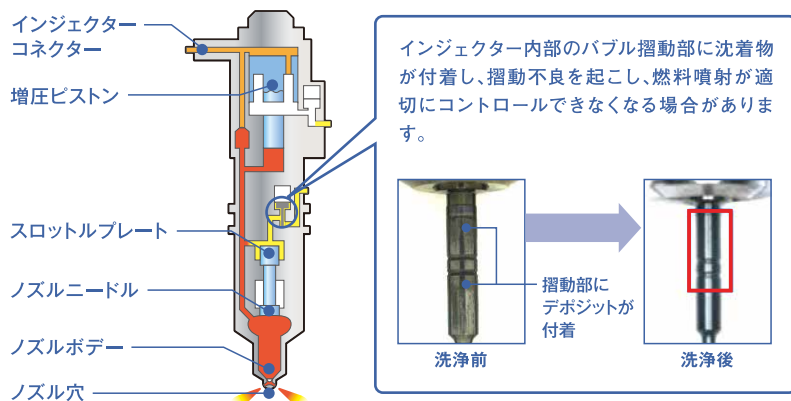
素材がいろいろあるので選ぶ楽しみも。温める際に高温になったときに知らせてくれるものを選びましよう。電熱式は温度設定やタイマーが付いていて、多くがUSBでの充電も可能です。コストがややかさみますが、長く使うことができます。



三菱ふそうからのお願い

予期せぬ故障防止・性能維持のために、 定期的なインジェクター洗浄を！

インジェクターを洗浄する理由は？



*6R10 / 6R20エンジンの場合

インジェクター洗浄の効果は？

エンジントラブルの防止

DPF®再生頻度の減少

エンジンパワーの回復

燃費の悪化防止

※DPF®は三菱ふそうトラック・バスの登録商標です。

洗浄該当車と洗浄の目安

車種	エンジン	品名	部品番号	洗浄時期(どちらか早い方)	使用本数	使用
大型トラック・バス	6R10/6R20	インジェクション クリーナー FS	QZ000658	6ヵ月または5万km	4本	必須
	6S10		QZ000688	1年または10万km	4本	任意
	6M70			1年または5万km	3本	
中型トラック・バス	6M60			1年または5万km	3本	
小型トラック・バス	4P10/4P10+			1年または4万km	70Lタンクは1本、100Lタンクは2本	必須*

*排ガス記号「2PG・」/「2RG・」/「2TG・」車両:必須、その他の排ガス記号車両:使用厳禁 [参考] 洗浄剤使用濃度:1.5%以下

三菱ふそう純正インジェクションクリーナー

三菱ふそうが評価した、適切かつ安全なクリーナーです。

[作業手順について]

- 1 エンジン停止状態で、燃料タンク給油口周辺の油、ごみ、水などを除去してください。
- 2 燃料タンク内が空に近い状態で給油口から洗浄剤を注入し、燃料を給油してください。また、燃料は満タンになるよう給油してください。
- 3 洗浄剤と燃料の混合をよくするために、下記の事を必ず遵守してください。
 - 洗浄剤の注入は必ず燃料給油直前に行ってください。
 - 洗浄剤を注入後、給油するまでは絶対にエンジンを始動しないでください。
 洗浄剤の酸化を防ぐため、注入後、再給油しない状態で車両を6ヵ月以上放置しないでください。

[不具合発生時修理費の事例]

定期洗浄を怠り、万一不具合が発生した際には修理費用が高額出費となります。

*上記金額は大型トラックでの一例です。

修理内容	有償修理費用
インジェクター交換	約 60万円
エンジン交換	約700万円

[不具合事例]

事例1

燃料が連続噴射状態となり、エンジンオイルが燃料により希釈されてコンロッドベアリングが損傷、エンジンを交換



事例2

燃料が排気系に流出し、タールパイプから火災が発生して、バスのリヤバンパーが焼損。



[ご注意] 万一、エンジンオイル量が急に増加した場合は、燃料が連続噴射状態となり、エンジンオイルが燃料により希釈された可能性がありますので、エンジンオイルの交換が必要です。



⚠ 警告 ● 洗浄剤は揮発性液体のため、通風のよい場所で作業してください。● 外気温が-20℃以下となる恐れがある場合は使用しないでください。



eCanter
が行く!

進む街づくり 大阪のウォーターフロント 舞洲を走るeCanter



テーマパークのような奇抜な建物は、舞洲スラッジセンター。なんと大阪市建設局の下水汚泥処理場です。デザインは世界的な建築デザイナーのフリーデンスライヒ・フンデルトヴァッサー氏によるものです。

大阪市此花区にある舞洲(まいしま)は、大阪港の北西に位置する約220ヘクタールの人工島で、大阪市の中心部から車で約20分、3つの橋で島の外とつながっています。島の東側が物流・環境ゾーン、西側がスポーツ・レクリエーションゾーンとされ、ウォーターフロントの特長を生かした街づくりが行われています。

舞洲という名称は、2025年の大阪・関西万博の会場となる夢洲(ゆめしま)、大阪ベイエリアのランドマークである展望台がある咲洲(さきしま)とともに1991年に一般公募で名づけられました。

スポーツファンには、サッカー・リーグのセレッソ大阪の練習場とクラブハウス、プロ野球、オリックス・バファローズの2軍の本拠地、バスケットボール・Bリーグの大阪エヴェッサの本拠地があることで知られています。もちろんそれぞれのチームのファンが足を運びますが、その他にも、24時間利用可能なサッカースタジアムがあるなど、スポーツアイランドという名にふさわしい設備が整えられています。

また、2008年の大阪夏季五輪の招致活動では舞洲がメイン会場とされていましたが、開催都市は北京となりましたという歴史もあります。

その他、愛犬家のための「ドッグウォーキング」では、犬のしつけや一時預かりにも対応、空中アスレチックやスカイ

トランポリンなどのアトラクションも楽しめるバーベキューパーク、森の中や水辺などを走る西日本最大級のバギーコースなど家族で楽しめる施設もあります。

eCanterへの期待が高まる

物流・環境ゾーンに関しては国内外資本の大型物流倉庫が立ち並び、大阪だけでなく、関西圏の発展を支える機能が集積され、咲洲、夢洲とともに、立地特性を生かした一体的な整備が予定されています。関西の物流の中心地である大阪港は、大阪市が直接管理していて、日本有数の国際コンテナの取扱量を誇ります。上海への定期便など中国・東南アジアと密接な関係を持っています。今後の発展が期待されていますが、舞洲も重要な役割を担っているのです。

もちろん環境も今後の整備や発展にとって欠かせない重要課題です。ゼロエミッションの走りを実現したeCanterへの期待が高まります。



首都圏湾岸エリアの重要拠点 市川支店をリニューアル

三菱ふそうは2023年1月26日、市川支店(千葉県)をリニューアルオープンした。

国内販売拠点の設備や施設の改良・新設によって、より高品質なサービスの提供と、従業員の働く環境の改善を目指す「ミライ」プロジェクトの一環として行われたもの。

市川支店は、事業環境の変化に伴って管轄エリアを東京都内だけでなく浦安地域など千葉県内へも拡大してきた。また京葉エリアの湾岸地域における近年の旺盛な整備需要を受け、支店の事務所スペースやストール数の不足が課題だった。今回のリニューアルでは、4ストールの整備工場を新設し、3分割フロアリフト1基、大型用2柱リフト2基を備えるほか、天井クレーンを2基設置し、車検からエンジン載せ替えといった大規模修理までに対応できる機能を備えた。さらに、お客様待合室を男女別に拡大改修し、メカニック向けの厚生施設、事務所なども刷新し、お客様と従業員の環境改善を図った。

三菱ふそうは今後も「ミライ」プロジェクトを通じて、従業員の労働環境のさらなる改善に努めるとともに、お客様へより良いサービスを提供していく。



ふそうオリジナル 公式LINEスタンプ公開中

スマートフォンを持っている人のほとんどが利用していると言われるコミュニケーションアプリのLINE。ユーザー同士でのメッセージのやりとりや、音声通話、ビデオ通話が可能で、幅広い人たちに利用される、なくてはならない存在となっている。メッセージのやりとりをする際、頻繁に使われるのがLINEスタンプ。一枚のスタンプで喜怒哀楽を伝えることができるコミュニケーションツールとして定着しているが、いよいよ三菱ふそうから公式LINEスタンプが登場した。公式LINEスタンプとは、LINEやそれ以外の企業やブランドが制作したもので、三菱ふそうのスタンプはトラックとバスのオリジナルデザインで、日常のあいさつや、ドライバーの日常業務にも使える便利なスタンプとなっている。詳細はQRコードで。



3月9日 | 1958 [昭和33年]

関門国道トンネル開通

関門国道トンネルは本州と九州を歩いて渡ることできる、世界初の海底道路トンネルです。山口県下関市と福岡県北九州市門司区を結ぶトンネルは上下の2層に別れ、上部が車道、下部が歩道となっています。トンネルの海底部分は780m。歩いて15分ほどで渡りきることができます。トンネルの中ほどには山口県と福岡県の県境を示す標識があり、海底の県境として人気のスポットとなっています。

関門国道トンネルの全長は3461m。車道のトンネル内は片側1車線の2車線道路で、NEXCO西日本が管理する有料道路です。海底トンネルなので、タンクローリーなど危険物を積載した車両は通行することができません。なお、本州と九州を結ぶ関門鉄道トンネルは1942(昭和17)年に完成していましたが、国道トンネルの工事も1939年に起工式が行われたものの、第二次大戦の影響などもあり長期に及びました。長期間にわたる工事で総工費は57億円、工事に携わったのは延べ約467万人だとされています。

国道トンネルは関門海峡の地下を通っていますが、関門海峡を車で渡るにはトンネルの他に、1973(昭和48)年に開通した関門橋があり、下関ICでは中国自動車道と、門司ICでは九州自動車道と接続していて、長距離輸送のトラックなどは関門橋を利用することが一般的です。



4月10日 | 1988 [昭和63年]

瀬戸大橋開通

本州と四国を結ぶ橋は明石海峡大橋(大鳴門橋)、瀬戸大橋、瀬戸内しまなみ海道の3本があり、最初に開通したのが瀬戸大橋でした。3月に青函トンネルが開通していたため、この日は日本列島の4つの島が陸続きとなった日となったのです。3つの橋には神戸淡路鳴門自動車道、瀬戸中央自動車道、西瀬戸自動車道が走っていて、西瀬戸自動車道には歩行者、自転車、原動機付き自転車の専用道路が併設されています。鉄道が走っているのは瀬戸大橋のみで、岡山駅と香川県の高松駅を結んでいます。橋そのものの長さは9368m、高架部を合わせると13.1キロにも及ぶ道路・鉄道の併用橋としては世界最大級の橋です。瀬戸内海のいくつかの島を経由しますが、途中の与島パーキングエリアには降り立つことができます。

もともと本州と四国間の交通は、海上輸送で行われていました。そのため気象条件によっては輸送用の船舶は欠航となり、物流はストップしていました。瀬戸大橋の開通で移動時間の予測が容易となり、時間そのものも大幅に短縮されたのです。

瀬戸大橋は土曜日と、ゴールデンウィークや年末年始などにはライトアップされ美しい夜景が人気を集めています。また、ふだんは立ち入ることができない管理用の施設や海面から175mの巨大橋梁の塔頂などを体験できるインフラツアーも実施されています。



COFFEE BREAK

ご存じですか？ ポッドキャスト

幅広いコンテンツを気軽に楽しめる、Podcast(ポッドキャスト)が話題です。ポッドキャストはインターネット上で音声データを配信するプラットフォームや番組の事で、もともとはiPodなど携帯音楽プレイヤーで聴くことができるものとして2000年代に流行したのですが、スマートフォンの普及で再び脚光を浴びるようになりました。

ポッドキャストを楽しむためにはApple Podcast、Spotify、Amazon Music、Google Podcastなどのアプリを利用することが一般的です。ニュース、英会話や歴史などの教育、お笑いなど多彩なコンテンツが提供されています。アプリの利用は基本的には無料で、それぞれのコンテンツはダウンロードも可能で、通信料を気にせず聴くことができます。

リアルタイムで放送されるラジオと違って、ポッドキャストのコンテンツは録音された音声コンテンツが配信さ



れます。

人気を集めているコンテンツの一部を紹介します。いずれかのアプリで聴くことができます。

▶「うそラジオPodcast松任谷由実をはじめました」: ユーミンこと、松任谷由実がパーソナリティを務める番組。

▶「おあとがよろしいようで」: 落語にまつわる話が面白い。落語家がゲストとして登場することもあります。

▶「歴史を面白く学ぶコテンラジオ」: 国内外の歴史の面白さを教えてくれるプログラムです。

スマホがあれば楽しむことができるポッドキャストを試してみたいかどうかでしょう。

PRESENT

アンケートにご協力いただいた方に、FUSOオリジナルグッズをプレゼント!



①オーガニック
ソフトタオル **10名**



②キャンター 1/43
ダイキャストモデル **5名**



③キャンター
ブルバックミニカー **10名**



④スタンドワイヤレス
チャージャー携帯充電器 **10名**

応募締め切り

4月30日(日) 当選者の発表は、賞品の発送をもってかえさせていただきます。(発送は5月中旬を予定)

応募方法

プレゼントご希望の方は、下記の方法よりご応募ください。

PCから

<https://forms.gle/dFaCnp4E5vbBUYX4A>

スマートフォンから



※ご記入いただきました内容は、「FUSO magazine」誌面充実のためにのみ、利用させていただき、ご本人の同意なく、個人情報を第三者に開示することはいけません。個人情報に関するお取り扱いにつきましては、三菱ふそうトラック・バス のホームページをご覧ください。

ついにそのときがきた、 未来が日常になる日が。

新型eCanterは、三菱ふそうが満を持して送る、最新の電気トラック。

1型式⇒28型式に大幅に増えたバリエーションにより、様々な架装のニーズに応え、

また、車両に合わせた3サイズのバッテリーにより、用途に合わせた航続距離を提供。

この2つのパワーアップにより、電気トラックは、

もう遠い未来の特別な存在ではなく、日常当たり前に使う、身近な存在に。

2050年脱炭素社会の実現に、静かでクリーンな街に、また一步近づきました。



新定番

新型 電気トラック
eCANTER

いよいよ受付開始

トラック・バスのお問い合わせは、三菱ふそう販売店へ



三菱ふそう
公式アカウント



スマホのカメラでQRコードを読み込むだけ！

三菱ふそうトラック・バス株式会社

www.mitsubishi-fuso.com